認定NPO法人コミュニティ・サポートセンター神戸（CS神戸）

1. 基本事業　地域活動団体の立ち上げを目指す「地域貢献ゼミナール」

【目的】 地域活動の裾野を広げるため、新たな地域活動団体を創出する
【内容】 ６日間の連続講座により、社会課題を知り、興味関心が近い人同士でグループを作って活動を始める
【成果】 ２つの地域活動団体がゆるやかに立ち上がった。今後は伴走支援を通じて団体の自立を目指す。
【今後の展望】 地域で役に立つことをしたいと考えている人は多く、今後も担い手の発掘を積極的に行いたい。地域課題の受け皿となる地域活動団体が多数立ち上がるようサポートを続けていく。

意欲的な参加者の皆さん

2. 企画立案事業　NPO向け勉強会「企業の資源をNPOに生かす～70歳就業法をチャンスに～」

【目的】 NPOにとって企業から寄付と人材の提供を受けるチャンスとなる「70歳就業法」について理解を深め、活用法を探る
【内容】 ＮＰＯ向けセミナーを神戸会場・播磨会場の２か所（いずれもハイブリッド）で開催し同法の理解を深める
【成果】 参加者のＮＰＯ関係者が同法による寄付や人材の受入れについて理解を深めることができた。参加者全員が今後の情報提供を希望しており、関心の高さが伺えた。
【今後の展望】 企業とタイアップし70歳就業法に基づく企業からＮＰＯへの寄付および人材の提供の具体的事例を創出したい。企業ＯＢがＮＰＯで活躍しやすいよう、在職中からインターンとしてＮＰＯに関わる機会の創出を目指す。

活発なやり取りがされました

助成事業と情報発信

認定 NPO 法人しみん基金・こうべ

１，事業の目的

下記 5 つの中間支援事業を行うことで、市民活動団体への財政的支援や組織力強化を行い、市民活動団体を育成する。

２，活動内容

①　　相談対応　7 件（対面分のみ）

②　　情報提供・ネットワーク

・ HP、SNS、メルマガ発行などにより、助成先団体への訪問等による活動紹介(5 団体)、関係各団体からよせられた情報等の発信

・ニュースレターの発行　年 3 回

・公開審査会や助成事業成果報告会での「市民活動団体」間、団体と支援者との交流

公開審査会（オンライン）10 月 26 日(火)

成果報告会（KIITO:300）12 月 8 日（水）

・グーグル広告、ヤフーネット募金を使った情報発信

グーグル広告　2.91 万回表示　クリック数 2010 回

クリック率 6.91%（4/1～1/31 の 10 か月間）

③　　人材育成

・公開審査会や成果発表会時実施による、プレゼンテーション力の育成・向上

④　　書類作成指導

・助成申請、事業成果報告書などの作成助言

⑤　　その他

・寄付つき商品、物品寄付等の広報ツールの作成

・寄付者等へのお礼状作成・発送

公開審査会での公開投票

成果報告会

古着／学術書チャリティチラシ

３，成果と課題

助成事業を継続でき 7 団体に助成することができたが、20 年間続けてきた助成事業について、時代に合った新たなスキームを検討するなど根本的な見直しについては手付かずとなり継続した課題である。

４，今後の展望

課題となっている助成事業の抜本的に見直しを実施し、寄付の集まる助成事業につなげていきたい。

こどもべや
オンライン

認定NPO法人まなびと

1

事業内容

オンラインにて、子どもの居場所づくり、
学習サポートを行う事業。

対象：小学生
参加費：500円
活動日時：子どもの都合に合わせて。週1回1時間～

2

事業を始めたきっかけ

コロナ禍で、家庭での学習に関して、

オンラインを通じてサポートを受ける必要が生じた。

3

今年度のチャレンジ

- 2020年度は多子世帯向けの学習支援として活動を始めた。
- その中で、発達障害・外国ルーツなど多様なニーズに出会った。
- 2021年度は、団体としてどのニーズに対応していけるのかを探ることを目指した。

4

今年度の結果

- 多子世帯の学習支援は昨年度から継続するも、数は伸びず。
→学校が休校になることが少なかったからか。

- 発達障害の学習支援は、年度内で利用が終了した。
→ニーズ自体はあると感じるが、サポート内容の設定が難しい。

- 外国ルーツの子どもたちへの日本語支援は問い合わせが増加。
→コロナ禍で人との関わりが減ったり移動が制限されているため、
ニーズは増加している。またオンラインツールの普及が進んでいる。

5

今後の展望

方針
- サポート内容を、日本語支援に集約して、支援体制の強化を図りたい。

課題
- 支援者が海外に在住のケースが増えていきそう。その場合に活動を継続的に行える体制づくりや資金繰りをどうしていくかがまだ見えていない。

6

新型コロナウイルス禍に翻弄され困窮した子ども等のサポート

特定非営利活動法人学習支援ソサエティ“命の根”

1　事業が目指すところ

新型コロナウイルス感染症は社会不安をもたらし、社会全般への自粛要請の中で子どもはストレスを抱き恐怖に包まれています。経済活動の自粛で解雇され苦しさを抱えている家庭の中で、ゲームに熱中し昼夜逆転している子、怠惰な日々を過ごす子などは、心身の健康状態に不調を訴えるようになってきています。更に、波6波が押し寄せコロナ感染症が急拡大しているという不安と隣り合わせの生活をおくる子どもたちは「生きにくさ」感じています。本事業はコロナ禍で困窮している子どもの心のケアをする為に様々なサポートをしています。

2　活動内容

（1）コロナ禍で学習支援の必要な子へのフォロー

①朝霧教室の活動日数（21回）

活動日	4/17･24	6月26日	7/3･10･24･31	8/7･14･21	10/2･9･16･23	11/6･13	12/4･11･18	1/8･15･22	合計
児童数	96	45	178	78	118	67	120	120	822
講師数	41	2	64	46	60	31	51	52	347

（2）生活相談を通しての支援　　相談回数　48回

関連機関との相談回数　　7回

学習の様子

3　成果と課題

①事例　　学習用具を持たないで参加する子

いつも遅れて学習室に入ってきます。学習用具を持たず服は先週の服と同じで汚れが目立ちます。コロナ禍の影響で4月より生活態度などが顕著に悪化していることがわかります。「いらっしゃい！待っていたよ。」と優しく先生は迎えます。プリントや筆記用具を用意しながら、学校の様子などを尋ねます。そしてグループで教え合いながら問題に挑戦させます。3人のグループで意見が飛び交い笑顔のなかに冗談も交じります。きっとこの子は居場所を求めてここに来たのだと推察できます。命の根の学習会に来ててくれたことを私たちは喜んでいます。

①事例　　学習用具を持たないで参加する子

②関連機関との相談

・学校との相談と連携　　・民生児童委員への相談

4　今後の展望、成果の活用

コロナ感染症拡大防止のための緊急事態宣言が2度も発令された影響で子どもたちの心身に大きな影響が出ています。自粛生活の中で、ゲーム等に夢中になり、外遊びや子ども同士のコミュニケーションが減り、子どもらしい元気さや活力が見られなくなっています。学習意欲も学力も低下しているように見えます。

本事業の必要度は増し、更に濃密に子どもたちへ寄り添わなければいけないと考えています。

本事業を通して、子どもたちの内面を見ることができました。家にいたたまれなくて本学習会に来ている子や学習がわからず誰にも尋ねることができない子どもたちの内なる願いを察することができました。その願いを受けて、係わりを見直し、個々への対応を深めるための方法を考えていきたいt歩もいます。。

学習の様子

10.5 ポイント以上で作成してください

児童養護施設入居者と地域住民のフラッグフットボール体験会

特定非営利活動法人　西宮フットボールクラブ 理事長 上山　竜生

１．事業が目指すところ

西宮市近郊の児童養護施設入居者と近隣の小学生に対し、接触する危険なプレイがない簡易なアメリカンフットボール「フラッグフットボール体験会」を通じて、アメリカンフットボールやチアリーディングの素晴らしさを知ってもらいます。児童養護施設入居者と地元児童と共同で物事を行うことで生まれる「絆」を育てて行きます。

２．活動内容

広報活動　①2021 年 11 月 13 日、11 月 21 日、12 月 23 日　　回数 3 回
チラシ、ポスターを計 2,000 部作成、配布先　西宮市内及び近郊にポスティング
②体験会の写真・動画を記録撮影し、ホームページや SNS での広報活動のために活用

フラッグフットボール体験会　開催

2022 年 1 月 10 日
参加者 13 名　場所：王子スタジアム

2022 年 1 月 30 日
参加者 8 名　場所：浜甲子園体育館

３．成果や課題点

初めてフラッグフットボールにふれる参加者も多く、非常に面白く楽しめたとの声をいただいた。
当スタッフも普及活動に積極的になり、WINWINの形となった。
ただ、新型コロナウィルス感染症の拡大を受け、規模を縮小し、一般の参加者のみでの開催となった。
３月中の開催も視野にいれ、現在、調整及び準備中である。

４．今後の展望、成果の活用

初めての自主開催にあたり、コロナウィルス感染症の拡大による日程・会場・規模の変更が多数あり、予定より非常に難しい運営となりました。幸い、感染者やクラスターは免れましたが、この経験を次回以降に繋げ、よりスムーズな運営を目指します。

地域づくり及び青少年育成を目指した「ぽっかぽか共生マラソン大会」開催事業報告資料

特定非営利活動法人ぽっかぽかランナーズ

1．事業の目的

マラソンは障害のある人もない人も同じ土俵の上で楽しめるスポーツだと思うが、現実は年齢や障害を理由に参加できない、障害者にとって厳しい時間制限があるなどバリアフリーとは言えない。

・小学低学年児や幼児、障害者にもマラソンを通して社会参加のきっかけを作る。

・マラソンを通して、年齢・障害・文化などの違いに関わりなく、だれもが支え合うことで、主体的に参加できる社会の実現を促進する。

今回購入したエアアーチ

伴走の形は様々

2．活動内容

第3回ぽっかぽか共生マラソン大会開催

・2022年1月30日（日）　宝塚武庫川河川敷

・申し込みエントリー数320名（うち障害者数50名、15．6%）
当日参加数　225名（うち障害者数38名、16．9%）
学級閉鎖や濃厚接触者で自宅待機の方も多く、参加率は70．3%と低くなりましたが、コロナ禍で健康維持やストレス発散や親子での交流の機会を提供できたと思います。

・ ボランティア申込数　83名、当日参加数　79名

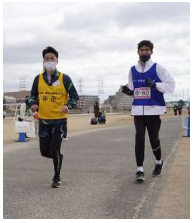
・青少年社会貢献活動に大学生2名が参加

・地元高校生9名がボランティアで参加

・足こぎ車いす体験コーナー設置

・小学生以下対象のマラソン教室開催。

歩行器で



寄り添って

紐を持って

ハンドル操作で

今後の展望

・大会や足こぎ車いす体験コーナーに参加したことをきっかけに、会員やボランティアの増員が期待出来ます。

・障害者や低年齢層の参加者が参加しやすいように、開催時期を11月くらいにして、1.5キロはスタート時間も遅くできたらと思っています。

・3年継続の助成で大会開催に必要な備品等をほぼ購入できました。今後は助成金に頼らず、開催していきたいと思います。
ありがとうございました。

EQを高めよう！
未就園親子や小学生の豊かなこころ作り

NPO法人親子会エルフ

現状

塾や習い事、公園で電子ゲーム、不登校、叱られてばかり、自分に自信がない、
子育てに悩む母親の孤立、核家族化で季節行事がおろそか、地域に子供会がない、少子化

目的

豊かなこころ作り、楽しく安心できる居場所作り、親睦を図り地域活性化への貢献

ぷちエルフ（未就園児親子教室）年間全１７回　延べ人数７３組が参加

季節の行事や工作、料理、野外活動、絵本など親睦を図る。子育て相談も行う。

おいもほり遠足

＜成果＞こども達は家庭以外の社会に馴染むことができた。核家族ではおろそかになりがちな季節行事に多くふれることが出来た。親は一人で悩まず相談することができ、気持ちが楽になった。しいては、些細なことで子供を叱ることも減り、笑顔あふれる子育てが出来た。「EQ」が高まったと考えられる。

きっずエルフ（小学生遊び学ぶ教室）年間全７２回　延べ人数678人が参加）

季節の行事や工作、料理、野外活動、絵本、学習会など毎回様々なプログラムを通して親睦を図る。子ども相談会も行う。

書初め遊び
今年はどんな人でいたいか？

＜成果＞楽しい時間をすごせた。笑いほめられ、肯定される中で友達の気持ちを考え、自分の気持ちを整理して行動できるようになった。また話す中で他人の意見を認め、自分の気持ちを話せた。導かず考えさせることで自由な発想力を身につけた。これは将来必ず役に立つ能力であり、豊かな人生には不可欠である。

今後の展望

＜課題点＞
少子化や地域にこども園（２歳児保育）ができたり、コロナの影響もあり、未就園児の親子会への参加者が少ないことである。宣伝の仕方等を工夫する必要である。
小学生の教室については楽しいがゆえ、言葉使いや態度が失礼な子供が多いように見られたので、親しい仲にも礼儀があることやけじめのある行動を指導していきたい。
＜展望＞
今後も事業を継続することによって、EQの高い豊かなこころを持つ人々が増え、楽しい地域となり町となり国となり世界となることである…とは壮大な話のようであるが、参加者一人一人がご機嫌でいられるような環境作りに努めたい。楽しい日々の積み重ねが豊かな心作りの原点である。

EQについて　※ネットより引用

自分と他者の感情を正しく認識し、適切なコントロールができる能力
かつ、それを踏まえて適切に表現できる能力（人間力とも言う？）

EQ が高い人の特徴

- 観察力が高い
- 上手に言葉を選ぶ
- 気遣いができる
- 聴く力が高い
- 相談しやすい
- 相手を尊重している
- 自分の長所・短所を把握している
- 逆境に強い
- 他人のせいにしない
- 思いやりがある

EQを高めるためには…？

- まずは否定せずに聴く姿勢を意識する
- 相手の良い部分を認める習慣を持つ
- 問題が起こったときはその気持ちを整理する

子育てママ☆つなげ隊petit＆つなげ隊＆輝き隊

NPO法人おーえんくらぶ

1. 事業が目指すところ

明石市内に母親のネットワークが構築され、子育て中の母親に有益な情報をたくさんの方に届けることもできる。また0歳児ママのつながりを作ることで、長く続くママ友を得られ、孤独や不安を感じるお母さんを減らすことができる。県内全域で「母親主体」のサークルが増えていけば、核家族化や地域のつながりの希薄さによって生まれる、児童虐待などの社会問題も、解決策が見いだせるのではないか。

2. 活動内容

①ママ輝き隊～月に1回、子育てに活かせるワークショップをウィズあかしにて開催。

9月　子どもの宿題を見守るコツ	12月　しめ縄作り
10月　家庭でできる性教育	1月　味噌づくり
11月　ミネラル酵素ドリンク作り	2月　デコ餅作り

リアル参加者合計61名／zoom参加者合計　23名／合計84名

②ママつなげ隊petit～月に1回、パピオスあかし子育てルームで足型スタンプでしおり作り。

11月・12月・1月・2月で13名参加。3月にも開催予定。

③ママつなげ隊

林子育て学習室からの依頼を受け、11月に講師として参加。

秋祭り（工作・魚釣り・ワニワニパニック等）開催。

親子17組参加。

3. 成果や課題点

・ママ輝き隊のzoom講演会は、明石市内にとどまらず、全国から参加していただけた。

・実習系の講座では受講生同士の交流も生まれた。

・託児スタッフの確保に追われたが、素晴らしい先生に出会い、安定して開催できた。

・乳幼児の親子向け「petit」では、いろんな月齢の子どもたちが参加してくれて、保護者同士の交流を図ることができた。

・コロナウィルスの影響で、親子サークルの活動が少なく、ママつなげ隊は1回の開催で終わった。

4. 今後の展望

ひょうごボランタリープラザからの助成が終わるため、来年度は、抜本的な改革が必要。

・お母さんに絞らず、子育てに関わる全ての人を対象にする。

・クラウドファンディングの挑戦や、新たな助成金への申請なども検討。

・子育て世帯が切に求めているサービスに絞る。

・SNSの影響力を武器に、広告を目的とした企業や事業家を募集することを検討。セミナー開催や商品の紹介をすることで、広告料をいただく仕組みを作る。